

日本クリエイション大賞2021 表彰案件

JAPAN CREATION AWARD 2021

大賞 テルモ株式会社

創立100年、医療を通じ社会に貢献

人類に残る感染症「スペインかぜ」がピークを迎えた1920年。その翌年、1921年に、テルモ株式会社は、第一次世界大戦の影響で輸入が途絶えた体温計の国産化を目指して、北里柴三郎博士をはじめとする医師らが発起人となって設立された。奇しくも、世界が新型コロナウイルス感染症の脅威にさらされた2021年、創立100周年を迎えた。

重症化した新型コロナウイルス感染症の治療において、大きな役割を果たしている医療機器の一つ「体外式膜型人工肺（ECMO）」の国内シェア7割を占めるのが、同社だ。需要の増加に備えて、2020年1月にはすでにECMOの部材の調達を開始し、政府から増産の要請があった4月には平時の2倍の生産が可能な体制を整えていたという。

これまでの100年、同社は、心臓外科手術、薬剤投与、糖尿病管理、腹膜透析、輸血や細胞治療などに関する幅広い製品・サービスの提供によって、医療の発展に貢献してきた。

カテーテル治療においては、血管への挿入部から病変部までの道筋を作る「アクセス」領域の製品で世界トップシェアを誇り、カテーテルの挿入部を太ももの付け根から、患者の負担が少ない手首の血管への挿入に変えるTRIを普及させた。テルモは、これからもさまざまな医療課題に対し革新的な技術とソリューションで応え、医療を通じ社会に貢献し続けていくに違いない。



カテーテルを挿入するための道筋をつくるガイドワイヤー

重症呼吸不全などの患者を救うテルモのECMO



オンリーワン技術賞 株式会社ティ・ディ・シー(宮城県利府町)

世界最高レベルの超精密加工で顧客の技術課題を解決

株式会社ティ・ディ・シーは、さまざまな素材を表面の粗さ（Ra）1ナノメートル以下（ナノは10億分の1）の精度で磨き上げることができる。平面だけでなく、曲面、球面など複雑な形状のものを「超」がつく精度で仕上げられる世界最高水準の研磨技術は、幅広い分野で活かされ、取引先は国内外でおおよそ4000社に及ぶ。超精密研磨では一点ものの依頼が多いが、同社は顧客からの相談を断らない。高い技術力と創意工夫、粘り強さで顧客の課題を解決してきた。大震災による被災後も、世界トップレベルの技術者を育成し、産学官連携など外部との連携も積極的に行うことで新技術開発を行ってきた。

同社は探査機「はやぶさ2」が小惑星「リュウグウ」で採取した物質を収容するサンプルキャッチャーの精密研磨を手掛けた。「はやぶさ2」が地球に未知の物質を持ち帰る偉業に貢献したのだ。2024年の火星衛星探査計画への参加も決まっている。



様々な材質・形状に対してナノオーダーの高品質を実現するティ・ディ・シーの超精密鏡面加工技術

福島から未来へ賞 株式会社ウッドコア(福島県浪江町)

国産材を活かした大震災からの復興と脱炭素化の推進

福島県の森林面積は97万ヘクタールを超え、全国第4位の広さを持つが、東日本大震災と原子力発電所の事故により大きな被害を受け、木材生産額も減少した。森林整備面積は大震災前の約半分となり、荒廃森林が増加している。今なお大きな課題である福島の森林再生と林業振興を目指して、2021年10月、浪江町に「福島高度集材材製造センター（略称FLAM＝エフラム）」が完成した。板を結合して安定した強度や品質を保つ集成材の国内最大規模の製造施設で、県産のスギやカラマツなどの原木から年間1万5000m³の集成材を生産する。大規模建築用の柱や梁に使われるもので、首都圏の木造高層ビルなどでの使用が想定されている。運営を担う株式会社ウッドコアでは、二酸化炭素を吸収して貯蔵する森林を手入れし育てる林業再生を通して、福島県からカーボンニュートラル社会の実現を後押ししていく。



福島県浪江町に建設された福島高度集材材製造センター（FLAM）

水産業革新賞 一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン(宮城県石巻市)

震災から10年、水産業をカッコいい職業に

日本では、平成の30年間で水産業に従事する人が約6割減少し、漁業生産量もおおよそ半分に減った。一方、世界では漁業生産量が、この30年間で2倍に増えている。

石巻で祖父、父と三代にわたって漁師をしていた阿部勝太氏は、25歳で大震災に遭い、すべてを失った。それでも海で働きたいという思いは変わらず、ただ復興させるだけではなく、漁業をカッコいい職業に変えていきたいと願うようになる。同じ想いを抱く漁師や魚屋が集い、2014年、阿部氏を代表とする若手水産事業者の団体「フィッシャーマン・ジャパン」を立ち上げた。2024年までに漁師、加工業者、魚屋だけでなく、料理人やクリエイターなど水産業に関わるフィッシャーマンを1000人育て、水産業のイメージをカッコよくて、稼げて、革新的な「新3K」に変え、次世代へと続く未来の水産業の形を提案している。



未来のフィッシャーマンを育成する「TORITON PROJECT」

Japan Creation AWARD 2022

日本クリエイション大賞とは？

日本クリエイション大賞は「より豊かな生活文化の創造」を標榜する一般財団法人日本ファッション協会が主催する顕彰事業です。生活をとりまく社会や産業、文化、さらには生活文化そのものの質的な高度化が求められている現代において、未来に向けて新たな足跡を残しうる優秀なクリエイションワークを表彰し、その素晴らしさを全国に広く知らしめることを意図するものです。

日本クリエイション大賞2022 実施要項

1.表彰対象

製品、技術、芸術・文化活動、地域振興、環境、福祉など、ジャンルを問わずクリエイティブな視点で生活文化の向上に貢献し、次代を切り拓いた人物や事象などを表彰対象とします。

2.選考基準

以下のいずれかの要素に該当するもの。

- ① 時代性:時代に衝撃を与え、時代を象徴するもの
- ② 革新性:斬新な発想で社会に新鮮な感動をもたらすもの
- ③ 文化性:人々の心に快適さや豊かさをもたらすもの
- ④ 国際性:国を超えて更には時間を超えて、広く人々に共感をもたらすもの
- ⑤ 社会性:地域や人々の生活を活性化させ、幸せ感をもたらすもの

3.賞の種類

- (1)【大賞】
1件:副賞50万円、楯(澄川伸一デザイン)
- (2)【各賞】
3件:副賞25万円、楯(澄川伸一デザイン)



4.選考について

一般財団法人日本ファッション協会「顕彰制度委員会」にて、3回の審議を経て表彰案件を決定します。

■選考委員長

日覺 昭廣
(日本ファッション協会 理事長、東レ株式会社 代表取締役社長)

■選考委員長代行

岩田 彰一郎
(株式会社フォース・マーケティングアンドマネージメント 代表取締役CEO)

■選考委員(50音順)

伊東 順二(東京藝術大学 教授/アートプロデューサー)
今井 環(公益財団法人NHK交響楽団 元理事長)
内館 牧子(脚本家)
大宅 映子(評論家/公益財団法人大宅壮一文庫 理事長)
加藤 タキ(コーディネーター)
河原 敏文(プロデューサー/ディレクター/CGアーティスト)
永井 多恵子(公益社団法人ユネスコ国際演劇協会 会長)
原 由美子(ファッションディレクター)

5.結果発表および表彰式

第3回選考委員会終了後、マスコミなどを通じて結果を発表し、2023年3月に表彰式を開催します(予定)。

応募方法

自薦・他薦は問いません。所定の応募用紙にご記入いただき事務局までお送りください。なお、関連記事や写真など、案件の内容が分かる資料がございましたら添付願います。※応募用紙は下記HPよりダウンロードしてください。

締切は、2022年10月15日とさせていただきます。

応募先

(一財)日本ファッション協会 日本クリエイション大賞事務局
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-5-1 神保町須賀ビル7階
TEL.03-3295-1311 FAX.03-3295-3295
E-mail: info@japanfashion.or.jp
URL: https://www.japanfashion.or.jp/

応募に関するご注意

- ◆応募内容は公開することもありますので、著作権、版権、工業所有権などの秘密保持を有するものに関してはご注意ください。
- ◆応募書類、資料等の返却はいたしません。
- ◆審査の対象になるかご判断が難しい場合は、お気軽に事務局までご相談ください。

後援

日本商工会議所 東京商工会議所 NHK

個人情報の取扱いについて

※ご提供いただいた個人情報は、当協会が本事業を実施するために必要な範囲でのみ取り扱いします。これ以外で利用する際は、改めて利用目的を通知し、同意を得た上で利用させていただきます。

※ご提供いただいた個人情報について、利用目的の達成に必要な範囲内で第三者へ提供することがあります。

※当協会は取得した個人情報を厳重に管理し、漏洩、滅失または毀損しないよう適切に安全管理し、所定の期間保有した後、安全な方法により廃棄いたします。

個人情報についてのお問合せ窓口

(一財)日本ファッション協会 個人情報管理事務局
TEL.03-3295-1311 FAX.03-3295-3295